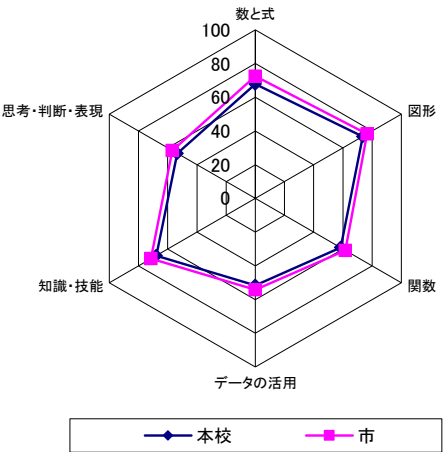


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.9	72.5	71.3
	図形	73.6	76.5	68.1
	関数	58.4	61.7	50.3
	データの活用	51.6	54.2	43.5
観点別	知識・技能	67.8	71.5	66.7
	思考・判断・表現	53.4	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均正答率を 4.6ポイント下回っている。しかし、全国学力・学習状況調査(9.1ポイント低い)に比べて、差は小さくなっている。 ● $(x+m)^2=n$ の形の二次方程式を解くことが課題に挙げられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業で計算問題を繰り返し解く時間を設けて、定着を図る。 ・平方根の考えをもとにした、応用であるという意識の涵養を図るとともに、解を求める過程を把握できるように支援していく。
図形	市の平均正答率を2.9ポイント下回っている。しかし、全国学力・学習状況調査(7.2ポイント低い)に比べて、差は小さくなっている。 ○図形を回転させたときの図形が重なる角度を求めることについては、市の平均を上回っている。 ●多角形の内角の和の性質についての理解が不十分である。	・多角形の内角の和を求める過程を、論理的に思考させることで、公式の意味の理解の深化を図る。 ・図形の分野では、具体物を提示したり、実際に図形を移動させたりして、生徒の思考を支援していく。
関数	市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。 ○1組の x , y の値から、関数 $y=ax^2$ の式を立式することについては、市の平均を上回っている。 ●グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求めることについては、正答率が非常に低く、19.1ポイントにとどまっている。	・関数における基本的な知識・技能の定着にとどまらず、図形の知識を活用する複合問題に慣れるための機会を増やす。 ・関数の式から座標を求めることや、座標から関数の式を求めることができるよう、演習問題を解く機会を増やし、形式的な処理の定着を図る。
データの活用	市の平均正答率を2.6ポイント下回っている。 ○四分位範囲を求めること、ヒストグラムから中央値を読み取り、含まれる階級の階級値を選ぶことについては市の平均を上回っている。 ●複数の球から1個取り出すときの確率を求めること、ヒストグラムを読み取り、その特徴をもとに説明することについては市の平均を下回っている。	・学習した語句を使って説明する問題を練習する機会を増やし、思考力や表現力を高めていく。 ・資料から特徴を読み取るための指標となる代表値の計算と、その値を適切に扱うことができるようになるために、丁寧な説明を行い、より一層の理解を図る。